

●シリーズ●わが町の文化財へ99

世羅町重要文化財 金銅製仏舎利塔

昭和59年5月15日指定

寺伝では慶長11年(一六〇六)、広島藩主福島正則が領国巡視の際、当地に来て安楽院に止宿、寺領として今高野山へ寺領五〇石を寄進した際、本塔を奉納したものと伝えていいます。金工の粹をつくした作品として貴重で、高さは48.8 cmです。

福島正則は、尾張国の生まれで、幼少から豊臣秀吉に仕えて各地を転戦した武将として知られている人物でした。秀吉の死後、関ヶ原の戦いで東軍の主力として活躍し、戦後広島城主として四十九万八千石を領有しました。浅野氏に代わっても今高野山の俸禄米は安堵され、幕末まで続きました。



【仏舎利塔とは】

仏舎利(釈迦の遺骨)を納める仏塔のことを言います。一般に仏塔の原型であるインドの「ストウパー」の様式をそのまま模して建てられた仏教建築物です。構造物の上に相輪をもつのが特徴です。

●シリーズ●わが町の文化財へ100

世羅町重要文化財 石造宝篋印塔(附石造五輪塔群)

昭和40年10月30日指定

本塔の背後の山中に明覚寺があったとされています。二基の大型の宝篋印塔は伝承によれば、鎌倉時代に曾我兄弟の霊を弔うため持仏を背おって諸国を遍歴した大磯の虎御前と化粧坂の少将の墓塔であると伝えられています。

種子梵字(古代インドのサンスクリット文字)以外は刻銘が磨滅して不明ですが、形式からみて南北朝時代から室町時代前期にかけての造立と推定される郡内でも秀麗な石塔です。高さ2.42 mと2.35 m。なお、同寺什物であったと伝える五鈷鈴の銘に、「白石山奉施入立壇志大將夜叉為息災延命也 弘安六癸未」とあり、弘安六年(一二八三)頃の鎌倉時代には、明覚寺が存在していたことが分かります。

右側の宝篋印塔の基壇底から、亀山式の骨蔵器が発見されており、大田庄歴史館に展示されています。

これら二基の宝篋印塔の他に、古式様式を持つ五輪塔群があり、明覚寺跡の古石塔群は、この地を支配していた赤屋地頭に関連するものと推定されています。周辺には「土居」などの屋号があり、中世大田庄の地頭級の居館跡が推定されます。

